

(Translation)

Case: Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 110288/1980

Title: Elastic Tubular Insertion Member for Writing Implement

Applicant: Shin Nippon Denki Kabushiki Kaisha, Japan

Claim:

1. An elastic tubular insertion member for a writing implement, that is inserted to an outer periphery of a writing implement such as a refilling pencil, the insertion member comprising a tubular body formed of an elastic material such as rubber, wherein ridges and valleys are formed on an inner surface of the elastic tubular insertion member for a writing implement.



実用新案登録願 (P)

昭和 54 年 1 月 30 日

特許庁長官 殿

1. 考 案 の 名 称

ダン セイ ツツ ジョウ ヒツ キ グ ソウ チキ プ ザイ
弾 性 筒 状 筆 記 具 押 着 部 材

2. 考 案 者 T530 大 阪 市 北 区 梅 田 1 丁 目 8 番 17 号
新 日 本 電 気 株 式 会 社 内

ヤ ス ム ラ ア キ ラ
安 村 章

3. 実用新案登録出願人 T530 大 阪 市 北 区 梅 田 1 丁 目 8 番 17 号
(193) 新 日 本 電 気 株 式 会 社
代 表 取 締 役 肥 後 一 郎



54 011370

110288

明 細 書

1. 考案の名称

弾性筒状筆記具挿着部材

2. 実用新案登録請求の範囲

ゴム等の弾性部材で筒状に形成されシャープペンシル等の筆記具の外周に挿着して使用される弾性筒状筆記具挿着部材において、前記弾性筒状筆記具挿着部材の内面に凹凸を形成したことを特長とする弾性筒状筆記具挿着部材。

3. 考案の詳細な説明

本案はシャープペンシル、万年筆、ボールペン、フェルトペン、鉛筆等の筆記具の外周で、特に筆記時に保持する指先が当接する部分に挿着され、指先の保持力が少なくても筆記具が指先から滑べることがなく確実に筆記ができる様にする為に使用されゴム等の弾性部材で筒状に形成された弾性筒状筆記具挿着部材に関し、その挿着部材を筆記具に極めて容易に挿着できる様に改善することを目的とする。

本案を図面とともに説明する。第1図は従来の

(1)

弾性筒状筆記具挿着部材（以下挿着部材という）
10 をシャープペンシル等の筆記具 11 に挿着する
前の斜視図、第 2 図は挿着部材 10 を筆記具 11 に
挿着し使用中の斜視図、第 3 図は第 1 図 A — A 線
に沿う断面図である。

挿着部材 10 はゴム等の弾性部材から成り、例
えば全長 3 cm 位、内径 5 cm 位、外径 6 cm 位の筒状
で、外面 12 には凹凸が形成されている。この挿着
部材 10 はその中空孔 13 に筆記具 11 の先端 13 側
から矢印 18 方向に挿入し、筆記具 11 の外面 19
上で、かつ筆記する場合に筆記具 11 を保持する
手 14 の指先 15 が当接する筆記具外面先端部 16
に挿着部材 10 を挿着して使用する。挿着部材 10
が先端部 16 に挿着された場合、挿着部材 10 はそ
の弾性で中空孔 13 の内面 17 が先端部 16 の表面
に密着し、容易に矢印 18 と逆方向へ抜け出ない
様に挿着部材 10 の弾力性、中空孔 13 の内径等が
選定される。外面 12 の凹凸は指先 15 の滑り止め
を良好にする為に形成される。

しかしながら、かゝる従来の挿着部材 10 は筆

記具先端部 16 に挿着すべく挿入する場合、筆記具外面 19 に挿着部材 10 の中空孔内面 17 が密着し、簡単、スムーズに挿入できない。挿入しようとして挿着部材 10 の外面 12 に、中空孔内面 17 が筆記具外面 19 を滑べって矢印 18 方向へ移動する為の力を増すと、その力に比例して中空孔内面 17 と外面 12 の密着力も増し、増々挿入が困難となる。

本案はこの様な点に鑑み提案されたもので、中空孔内面 17 に凹凸を設け、挿入を容易にできる様にしたことを特長とする。

第 4 図と第 5 図は本案一実施例の挿着部材 10 の斜視図と第 4 図 A - A 線断面図である。第 4、5 図の本案のものが第 1 ~ 3 図の従来のもものと異なる点は、挿着部材 10 の中空孔 13 の内面 17 に凹凸 20 を付加したことである。この図示例の凹凸 20 は中空孔 13 の軸線方向に延びたものであるが、中空孔 13 の内面 17 に複数の小突起を点在させたもの、凹凸が中空孔内面 17 に螺旋状に延びているもの、凹凸が中空孔内面に中空孔 13 の軸線方

向と交わる方向に延びているもの等種々のものが考えられる。

以上の様に本案によると挿着部材 10 の中空孔内面 17 に凹凸 20 を形成したから、筆記具外面 19 への挿入時に、その凹凸 20 によって中空孔内面 17 が筆記具外面 19 に密着することを緩和し、非常にスムーズに挿着部材 10 を筆記具外面 19 に挿入することができる。実施例によれば従来のももの内面に凹凸 20 を付加しても挿着後容易に抜け出る等の心配はなく十分に実用に供しられるものであることが確認されたが、もしも抜け出る様な場合には内径を少し小さくし、挿着部材 10 の弾性力を強くする等の配慮を施せばよい。

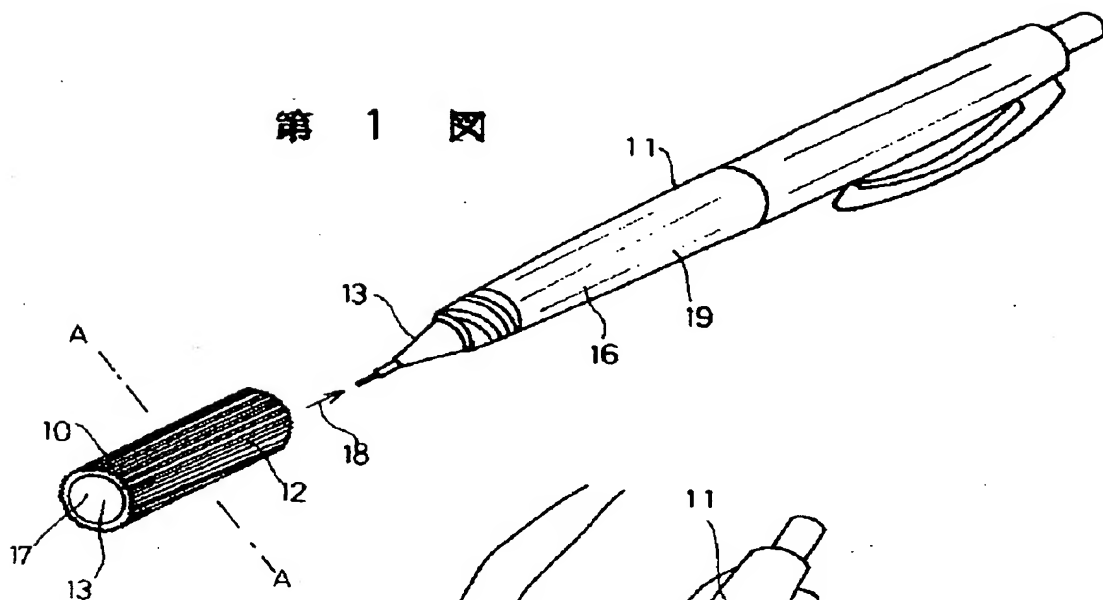
1. 図面の簡単な説明

第 1 図は従来 of 弾性筒状筆記具挿着部材を筆記具に挿着する前の斜視図、第 2 図は挿着後手に保持して使用中の斜視図、第 3 図は第 1 図 A—A 線に沿う断面図、第 4 図は本案一実施例の挿着部材の斜視図、第 5 図は第 4 図 A—A 線に沿う断面図である。

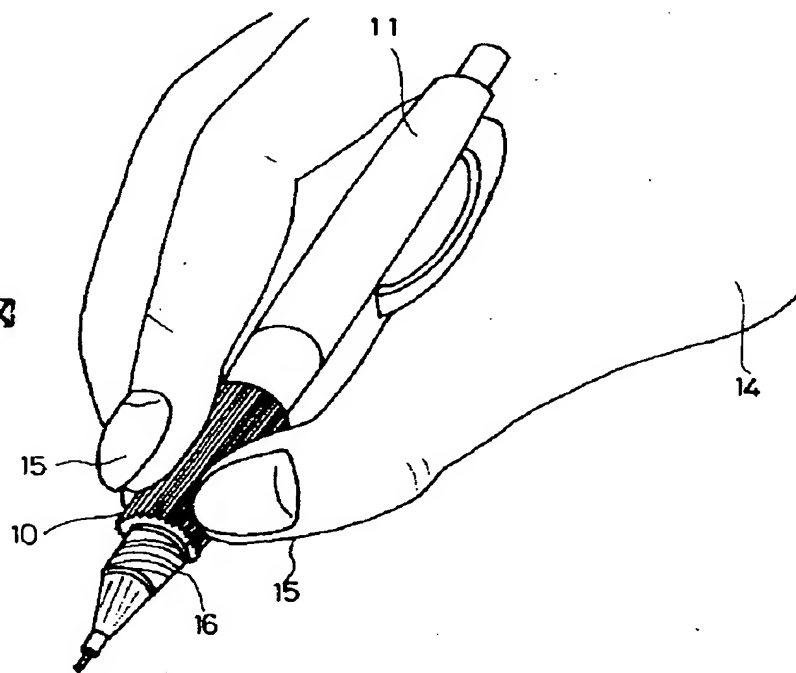
10 は弾性筒状筆記具挿着部材、20 は凹凹を示す。

実用新案登録出願人	新日本電気株式会社
代表取締役	肥 後 一 郎

第 1 図



第 2 図

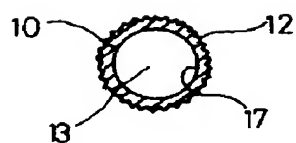


11 0288 1/2

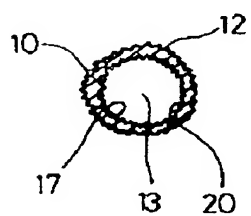
出願人 新日本電氣株式会社

代表者 肥 後 一 郎

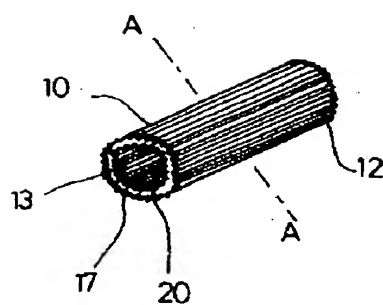
第 3 図



第 5 図



第 4 図



110288 $\frac{2}{2}$

出願人 新日本電機株式会社

代理人 肥 後 一 郎

4. 添付書類の目録

- (1) ☒ 明 細 書 1 通
- (2) ☒ 図 面 1 通
- (3) 願 書 副 本 1 通

5. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人

(1) 考 案 者

〒530 大阪市北区梅田1丁目8番17号
新日本電気株式会社内

連絡先 〒520 滋賀県大津市晴嵐2丁目9番1号
新日本電気株式会社 特許部
電話大津 (0775) 37-2100 番